



# 自尊感情を育む乳児保育の実践

やすだ いくこ  
保田 維久子 さん

常磐会短期大学非常勤講師・元豊中市認定こども園 園長

人権保育専門講座3では、保田維久子さんに「自尊感情を育む乳児保育の実践」と題してご講演をいただきました。ご講演では、「自分は大切に思われている」「自分のことが好き」などと子どもたちに感じさせるための乳児保育の実践についてお話しいただきました。

## 〈気になるAちゃんの姿〉

- 周りの子たちが片付けたおもちゃ箱を次々とひっくり返す。
- 片付けになり、周りの子たちが箱におもちゃを入れていくと、たくさん入ったものからひっくり返して全部出していく。
- 「この箱に入れるよ」などと声かけをするが、片付けている保育者を見ようとしない。
- 保育者が、声を掛けながらひっくり返そうとすることを止めるとロッカーに登っていく。

## 〈Aちゃんを観察してみると〉

- なんでもかんでもひっくり返している。
- 保育者が片付けたおもちゃを全部箱から出していくことが多い。
- 保育者の都合で、子どもが手が届きにくいロッカーの上に箱を置くから登るのかもしれない。
- 保育者は、Aちゃんが困った行動をするときだけにかかわっているかもしれない。
- 抱っこすると、いい顔している。だっこしてほしいのかな。かかわってほしいのかな。

## 〈イヤイヤ期は、「私は私」になる第一歩〉

- イヤイヤ期は、自分とは違う人という関係で捉えることができたとのこと。
- 自分が主体になり、他者とぶつかり合いを経験するということは、自我の芽生えにつながる。
- おとなとぶつかり合い、友だちとぶつかり合い、自分とは違う「他者」に気づく。
- 「育ってほしい力」は、子ども自身が一人で行けられるものではない。

## 〈保育者自らが変わる〉

- できるだけ同じ保育者がかわり、Aちゃんが「この先生が好き」と思える関係を作る。
- 保育者はおもちゃを出すときに、Aちゃんの興味を引くような遊具の出し方をする。
- 保育者自身が楽しんでいる姿を見せていく。
- ひっくり返す事が遊びになっているので、積み木などが倒れる面白さを知らせる。
- ポットン落としなど、入れる楽しさを教える。

◇子どもとの関係が変われば遊びが変わる。遊びが変われば関係が変わる。



子どもたちは、嘸んだり、引っ掻いたり、教室から出て行ったり、なかなか遊んでくれなかったり、毎日大変です。先生方には、それでも保育を楽しんでほしいと思います。一人ひとりの子どもの姿を丁寧に観察していると、子どもが何に困っているのかに気づくことができます。困っていることを解決する方法を考え、子どもと一緒に行動することで、トラブルがいやなことではなく、楽しく遊べた経験になっていきます。すると、子どもの遊び方が変わり、保育者と子どもとのつながり方が変わっていきます。子どもがする遊びの面白さを共感して、子どもが自信をもって表現できるようにすることは、子どもどうしが尊敬しあう関係をつくることにもつながっていきます。

## 【参加者のアンケートから】

- おもちゃ箱をひっくり返さないように工夫することで、トラブルが収まり解決できたと決めつけているようなことがあったと思います。先生のお話を聞いて、子どもがトラブルを乗り越え、さらにその先の遊びを楽しめるところまで付き合うことが大切だということを知りました。
- 嘸んだり引っ掻いたり手が出たりする子について、どのようなときにそうした行動が出るのかを、今まで以上にじっくり観察したいと思いました。日々の生活において子どもたちは、様々な姿を見せてくれます。私たちは、一人ひとりの子どもと向き合っていくことで、子どもが何を感じ、何に困り、何をどうしたいのかを、より深く理解していきます。子どもへの丁寧なかかわりは、子どもを大切にすることだと思いました。

